

# 令和3（2021）年5月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年5月12日（水曜日）  
午前11時～午後0時16分  
柏崎市役所多目的室

## 新型コロナウイルスワクチン接種について

5月10日から、65歳以上を対象とした接種券の送付と予約が始まりました。

先んじて、先月から75歳以上の予約が始まっていますが、5月10日現在、75歳以上の予約は11,044件です。75歳以上はおおむね1万4千人いらっしゃいますので、予約率は約78パーセントです。

次に、75歳以上も含めた65歳以上の予約は、5月11日午後8時現在で、16,311件です。75歳以上も含めた65歳以上の予約率は59.28パーセントとなっています。65歳以上に関しては、5月10日から接種券の送付と予約が始まりましたが、5月11日午後8時までに5,267件の予約がありました。

正確な数ではありませんが、5月10日以降は、おおむね7割以上がインターネットによる予約であると報告を受けています。オペレーターも増やしましたので、電話ももちろん使えますが、ご家族やご近所の方を含めて、もしインターネットの使い方が分からないという方がいらっしゃいましたら、お手伝いいただきたいと思っています。市職員にも、ご近所に困っている方がいらっしゃったらお手伝いしてもらいたいと伝えてありますし、すでに多くの市民の皆さんから、市職員から手伝ってもらったというお声もいただいています。

5月18日からいよいよ接種が始まりますが、ワクチン接種券、予診票、本人確認書類に加えて、お薬手帳も持ってきていただければありがたいと医師会の先生方からもお話をいただいています。

## 1 発表事項

### (1) あなたの考えた花火が打ち上がる！海の大花火大会花火デザイン募集

（主管：商業観光課）

昨年、今年と柏崎市民自慢のぎおん柏崎まつり海の大花火大会を中止としました。来年は皆さんに花火をデザインしていただいて、優秀作品の花火を打ち上げたいと思っています。小学生などには、教育委員会を通して、楽しい花火、きれいな花火を描いてくださいという

お願いをしました。お子さんのみならず、全国の方々から来年度に向けた新しい花火をデザインしていただきたいと思っています。

優秀作品の3つか4つぐらいを片貝煙火工業の本田さんをお願いして、できないものもあるかもしれませんが、来年は皆さんのデザインした花火を打ち上げたいと考えています。

応募第1号として、私も描いてきました。皆さんから見て左側は海の大花火大会ですが、私の企画としては、皆さんから見て右側、米山、黒姫山、八石山それぞれの頂上からも花火が上がるというものです。なかなか実現するとは思えませんが、三角形の花火、真四角の花火、水中花火のところにはコロナと書きましたので、コロナを目掛けて水中花火を打って、来年は新型コロナウイルスを粉砕して、来年の海の大花火大会は大々的にやりたいと思っています。ぜひ全国の皆さんから花火をデザインしていただいて、積もり積もった思いを柏崎の海の大花火大会で爆発させていただきたいと思っています。

花火大会開催時には、BS放送で生中継をしました。今年は、7月26日前後に、なるべくたくさんの方から見ていただけるような時間帯で、過去の柏崎の海の大花火大会のダイジェストを作ってください、それを番組化できないかBS局と現在交渉中です。その番組の中で、花火のデザインの優秀賞などを発表する設えを整えたいと考えています。

私共は、海の花火大会としては日本一だと自負しています。ぎおん柏崎まつりの海の大花火大会の復活を目指して、今年から準備を重ねていきたいと思っていますし、花火師の片貝煙火工業の本田さんにも、今年1年間、新しい花火を作る研究をしていただきたいと願っています。そのために私共も応援させていただきます。

## **(2) 柏崎市飲食店認証制度を創設**

(主管：商業観光課)

新型コロナウイルス感染症の経済的な影響が全国で非常に大きくなっています。その中でも、特に飲食店への影響が著しいと承知しています。そのため、柏崎市はこのたび柏崎市感染防止対策飲食店認証制度を作りました。認証の要件は、入店時の検温および手指消毒、店内の消毒、十分な換気、アクリルパネルの設置などの飛沫感染予防、十分な間隔をとる、1時間半以内の利用、カラオケなしなどです。

さらに、県の事業継続支援金の支給を受けていて、個室で10名以上の宴会場を持っている飲食店には10万円を支給します。これは、昨年度、忘新年会や歓送迎会の時期を対象に、大きな宴会場を持っている飲食店に対して考えたスーパーGOTO忘新年会を中止せざるを得なくなり、私共の事業の中で大きな宴会場を持つ飲食店を支援できなかったことも含めて考え

たものです。県の制度で20万円、私共の制度で10万円ですので、1店舗を経営している方から見れば、合計30万円が支給されるということになります。10人以上の宴会場を持っていない飲食店に関しては、認証店として5万円の協力金を支給します。小さな店舗や事業所でも、感染対策をしっかりといただければ認証店として認め、5万円を支給するという事です。制度の詳細はチラシなどをご覧くださいと思います。

事業費は、10万円の対象となる飲食店が100店舗で1千万円、5万円の対象となる飲食店が350店舗で1,750万円、総額2,750万円を予定しています。財源は国からの地方創生臨時交付金を充当する予定です。

### **(3) 「三園めぐり」を取り扱う旅行業者を募集中**

(主管：商業観光課)

柏崎には貞観園、飯塚邸秋幸苑、松雲山荘の3つのお庭があります。これらは主に紅葉時期にお客さんが訪れる名園ですが、グリーンシーズンもお庭の魅力を発信したいということで、旅行代理店の方々に営業をしました。その結果、胎内市、三条市、十日町市、長岡市、上越市、糸魚川市の旅行代理店などからこの3つのお庭のグリーンシーズンの魅力を扱っていただくことになりました。

これは市外の方々からお越しいただくものですが、3つのお庭を見たいという市民の方も多いと伺っていますので、市内の会社が「三園めぐり」ツアーを現在企画中です。グリーンシーズンに間に合うかどうかは別ですが、3つのお庭それぞれの魅力を多くの皆さんにお届けしたいと思っています。

県は、新潟県民割キャンペーンを調整中だと承知していますので、県の制度を使ってお得な価格で三園のグリーンシーズンをお楽しみいただければと思っています。今月の広報かしわざきでも、三園の美しい緑を紹介しています。

### **(4) Made in Kashiwazaki の製品が全国へ**

(主管：ものづくり振興課)

柏崎市のふるさと応援基金、いわゆるふるさと納税の返礼品には、これまで工業製品がありませんでした。このたび、飯塚鉄工所と柏崎ユーエステックから工業製品を返礼品として登録していただくことになりました。

飯塚鉄工所は JAPANDON というもので、市役所の東口にも飾らせていただいている意匠を凝らした行燈です。柏崎の製造業が持つ卓越した技術を、日本の伝統文化に生かすかたちで返礼品として加えさせていただいたことは、私たちとしても嬉しく思っています。

もう一つは、柏崎ユーエステックの Bollina O<sup>3</sup> Mist というもので、脱臭や除菌効果があるオゾン水の携帯式生成器です。水道水からその場でオゾン水を生成できます。

これからも柏崎で優れた製品をいろいろな企業から作っていただけたらと思っていますが、お米、お酒、お菓子、越後バナナ、越後姫などに加えて、工業製品も柏崎の返礼品の一つとして加えさせていただきますので、企業の皆様のお力添えやご提案をお待ちしています。

#### **(5) 第 21 回柏崎潮風マラソンをオンラインマラソンで開催**

(主管：スポーツ振興課)

今年もリアルでの潮風マラソンはできないことになりました。オンラインで開催します。TATTA というトレーニングアプリを使ったバーチャル企画です。ハーフマラソン 21.0975 キロメートルを、実際の潮風マラソンのコースではなく、どのようなコースでも、21.0975 キロメートルを走ると完走証が発行されます。

エントリーされた方々の特別抽選会は、事務局で抽選を行い、当選者に商品を送ります。来年こそはリアルでの潮風マラソンを開催したいと思っています。

#### **(6) 有害鳥獣被害に対する取り組みを強化**

(主管：農政課)

柏崎市は、今年から農政課の中に有害鳥獣対策係を設置しました。これは、昨年イノシシによる人身被害が 2 件、物損事故も 2 件発生し、具体的な被害が及んできているという状況を踏まえて設置したものです。

また、新たな補助事業を三つ作りました。一つ目は生活用防護柵の設置補助金です。いわゆる電気柵は農業用に使われますが、街中に出てきているイノシシなどを防ぐ場合には通学路などもありますので、電気柵は使えません。この生活用の防護柵で、比較的市街地の方のイノシシ被害を防いでいただきたいと思います。これは農業者でなくても申請できます。

二つ目は既設電気柵更新事業補助金です。設置済みの電気柵の老朽化が著しいことから、更新のための支援をするものです。

三つ目は有害鳥獣捕獲担い手緊急確保事業補助金です。基本的には個体数を減らさなければいけません。これまで猟銃免許取得の支援をしていましたが、加えてわな猟免許の新規取

得も支援します。より広く有害鳥獣捕獲の担い手を確保したいという切なる願いから作ったものです。

柏崎市が設置している電気柵の総合計は370.98キロメートルです。これはかなりの長さだろうと承知しています。県内他市に比べても、電気柵の総距離数は突出しています。令和3年度は、新たに90キロメートルを整備します。

柏崎市ではインターネット上にイノシシ出没マップを公開していますが、このたびリニューアルしました。イノシシマークをクリックすると、出没時の詳細情報を確認できます。市民の皆さんから、どのようなところにどのような状況で出没したのかを見ていただき、有害鳥獣を身近なものとして認識していただきたいと思います。

## **(7) 株式会社じよんのび村協会の社長を再募集**

(主管：商業観光課)

先々月の発表では村長を募集としていましたが、より一層経営の色を強く打ち出したいということで、今回は社長を募集としました。前は15人から応募していただきました。私自身は直接選考に加わっていませんが、選考後に、応募者の概要などを見せていただきました。それぞれ皆さん熱意を持って応募していただいたと承知していますが、残念ながら、現実的という部分が今のじよんのび村の厳しい状況乗り越えるほどのものにはならなかったという評価でした。応募していただいた方々には恐縮ですし、地元の企業経営者の方からも厳しい批判がありましたが、その批判を踏まえてもなお、柏崎が誇る、高柳が今まで大切にしてきたじよんのび村を守るため、厳しい判断をさせていただきました。

今回は、3年以内に黒字化してもらいたいということを書かせていただき、エージェントも活用して全国から適任者を紹介していただきます。エージェントには成功報酬をお支払いします。そこまでしてでも、熱意があり、地域の中に溶け込み、高柳の方々の思いをくみ取り、数字に強く、経営を立て直していただける人材を探したいと思っています。一般公募なので、エージェントのみならず、いろいろな方々から多くの応募をいただき、厳しいじよんのび村の状況を打開できる人材を採用させていただきたいと思っています。

## 2 質疑応答

### ◎新型コロナワクチン接種に関する質問

**記者：**以前、市が発表した接種日程では、7月17日までが1回目の接種で、2回目の接種が8月第一週までかかるということになっていたと思う。国は、高齢者の接種は7月中の完了を目指してほしいという意向を示しているが、接種日程を前倒しするような考えはあるか。

**市長：**はい、7月中に65歳以上の方々の2回目の接種を終わらせます。先般行われた県とのウェブ会議でも、知事同席の下で宣言しました。現在、8月以降に2回目の接種予約をされた方々に個別に連絡し、7月中の接種をお願いしているところです。

**記者：**先日、接種予約の電話オペレーターを8人から12人に増やしたという話をされたが、さらに増やす予定はあるのか。また、増やさなければならないような状況なのか伺いたい。

**市長：**オペレーターを増やす前は、電話が繋がらないという苦情が1日25件から30件ほどありましたが、増やしてからは3、4件に減りました。7割以上の方々がインターネットで予約されていることが要因だと思います。オペレーターの数は12人のままです。

**記者：**柏崎市の75歳以上の人数はおおむね1万4千人という話だが、65歳から74歳までの人数はどのぐらいか。

**市長：**いわゆる高齢者と言われる65歳以上が約2万7千人で、内訳は、75歳以上が約1万4千人、65歳以上74歳以下が約1万3千人です。

**記者：**65歳以上の予約率が6割ほどだということだが、この数字に対する評価はどうか。

**市長：**65歳以上の方々の予約はおととい始まったばかりで、少なくとも75歳以上の方々は5月10日の時点で予約率が約78パーセントですので、かなり良いのではないかと考えています。しかし、残り22パーセントの方々が受けないと決めているならばご自身の意思なのでいいですが、受けたいがどうしていいか分からない方もいるはずなので、民生委員、地域の方々、

市職員を通してもう一度呼び掛けるべきだと担当に話したところです。

**記者：先日、議会から出された市長に対する要望の中で、集団接種会場までの交通手段がない高齢者への配慮などを求めるとあったと思うが、市としてどのように考えているか。**

市長：集団接種会場は1箇所ですので、例えば高柳や西山の方々も基本的に旧柏崎市役所にお越しいただかなければいけません。もちろん不満が出るだろうということは承知していました。しかし、今回使用しているファイザー製のワクチンは、振動に非常に弱く、移送する間の品質保持をどうするのかという問題があります。また、それぞれのクリニックなどで接種していただくということになると、無駄を出すわけにはいかないですし、先生方も本来の診療業務もありますので、柏崎レベルの人口では集団接種がベストだろうということを医師会の先生方を含めて決めたところです。

施設入所者は施設で接種をしますが、例えば要介護4や5でご自宅にいらっしゃる方、特養に入りたくても入れずに待っていらっしゃるような方はどうするのか、障がいをお持ちの方はどうすればいいかを、随分前から担当と話をしています。現在、どうしても集団接種会場に行けない方がどの地域にどのぐらいいらっしゃるのかをピックアップしているところです。それを基に、なんとか接種をしていただけるように医師会の先生方と対応を詰め始めているところですので、対象になる方々には決まり次第ご連絡させていただきたいと思っています。

**記者：具体的なことは言えないと思うが、例えばその方のかかりつけの医院での接種や、自宅での接種なども視野に入れているということか。**

市長：選択肢としてはそういったものが当然出てきます。どちらかにするのか、両方するのかなど、地域やご本人の状況によっても全く違ってきますので、現在、一人一人の状況を確認させていただいているところです。

## ◎海の大花火大会花火デザイン募集に関する質問

**記者：花火デザインの審査方法などはどのように考えているか。**

市長：お金をかけてまでやるつもりはありませんので、片貝煙火工業の本田さんをはじめとする関係者の中で選考させていただきたいと思います。柏崎には美術関係の先生方の団体もありますので、そういった方々にもお声掛けして審査させていただきたいと思っています。

**記者：優秀賞を BS 局の番組の中で発表したいということだが、他の応募作品を展示するなどの機会は考えているか。**

市長：小学生などにもお願いしているので、応募作品はかなりの数になると思います。全員の作品を展示できるかわかりませんが、ソフィアセンターなどに展示するような設えを考えたいと思っています。ウェブ上ではできるとは思いますが、ウェブのみならずリアルでも考えていきたいと思っています。

## ◎柏崎刈羽原子力発電所に関する質問

**記者：柏崎刈羽原子力発電所で 2015 年にも ID カードの不適切な使用があったと発覚したが、このことについての受け止めと、あらためて東京電力に何か求めるという考えはあるか。**

市長：今回の事案に関しては、もちろん由々しき事態ですし、あつてはならないことだというのが基本認識です。一方で、6 年前の事案です。今回の事案が昨年や今年のことであれば問題外だと思いますが、6 年前の事案であり、それぞれそのときの方針に従って警察などにも報告された事案であったと私は承知しています。あつてはならないことですが、このような過去の事案、昨年からの ID 不正使用の問題、核物質防護施設などの不備の問題も含めて、新たに東京電力がどのような意識、態勢で臨むのか、背水の陣を強いて厳しい検証をしてもらいたいと強く願います。また、規制庁、規制委員会の特別検査などが続くはずですので、それに真摯に対応してもらいたいと考えています。



**記者：6年前の事案なのでという発言があったが、逆に言うと6年前から昨年に至るまでルールの軽視が常態化していたのではないかという懸念はないか。**

市長：もちろん問題です。ただし、何度も申し上げているように、昨年9月のID不正使用の問題、前後して出てきた核物質防護施設の問題の衝撃が非常に大きく、それを越える、もしくは同等の事態ではありません。6年前のその事案に関しては、それぞれその当時のルールに則って報告などされたはずです。もし、規制庁、規制委員会のルールで何年前まで遡って調査するというものがあつたならば別ですが、6年前、10年前、20年前、30年前のことを大きく捉えるよりも、私は今後の東京電力の取り組み、また、規制庁、規制委員会の取り組みに期待したいと思っています。

**記者：先日UPZの自治体の議員研究会が電話で住民アンケートを実施したところ、UPZ内の約8割の方が、いわゆる柏崎刈羽原発の再稼働に向けて事前了解の範囲の拡大が必要だという結果だった。この数字について受け止め伺いたい。**

市長：8割という数字は重い数字だと思います。それはもちろん重要だと思いますが、何度も申し上げているように、原子力発電所が立地していることのリスクやデメリットも含めて、柏崎刈羽の方々は50年にわたって否応なく勉強させられてきました。今回たまたま原子力発電所7号機などの再稼働の話題が出てきた、たまたま茨城県の事案が出てきたという、俄かにこのような問題意識が出てきた中でのアンケートは、8割という数字は重いだろうと思いますが、私はもう少しいろいろな方々に長い時間をかけて原子力発電所のこと、再生可能エネルギーのこと、日本のエネルギー事情含めてよくご理解いただいて、その上でご判断いただければありがたいと思っています。

**記者：以前、市長は事前了解について、1自治体が柏崎市刈羽村と同等レベルの安全協定の様なものを持つのは違うという発言をされたが、その考えに変わりはないか。**

市長：変わらないというか、報道の中にも間違った報道があります。柏崎刈羽や新潟県が事前了解権を持っているような話をされる場所もありますが、どこにも事前了解権なるものは書いてないし、ありません。そこは間違わないでいただきたいと思っています。

先般長岡で開かれた研究会や文書でもお話ししましたが、柏崎市でさえも事前了解権というものは、もしあるとするならば安全協定の中にあるその他の中で規定されているのかなというぐらいで、法律的には事前了解権なるものはありません。そこをおかしいのではないかと、法的拘束力を持たせることも考えなければならないのではないかと、私自身も悩んで今研究を始めていると申し上げました。30 キロメートル圏内の方々が求めている新しい安全協定の中に事前了解権をというお話ですが、柏崎刈羽、新潟県が結んでいる安全協定の中にも事前了解権なるものは明示されていないということを改めて申し上げたいと思います。

**記者：UPZ 圏内のアンケートについて、市長は今回たまたま 7 号機の再稼働の問題が出て、たまたま茨城県の事案が出たからと話された。たまたまという表現は、アンケートの対象になった地域の人たちが、原発問題をそれほど意識していなかったが、不正事案などが出たから俄かに不安に思って事前了解は必要だと思われたという認識を示されたと受け止めたが、それでよいか。**

市長：柏崎刈羽のみならず、30 キロ圏内、新潟県内、日本、世界の方々が不安に感じているだろうと思います。今このタイミングとして、福島事故が起こり、茨城方式なるものが起こり、柏崎刈羽原子力発電所 6 号機、7 号機の再稼働問題が重なってきました。そういった中で不安があり、そしてまた 30 キロメートル圏内に避難計画の作成が求められているということが重なってきた中でアンケートを取られたのだと思っています。しかし、前にも申し上げたように、30 キロメートル圏内のそれぞれの自治体の議会の中で、新潟県議会の中で、過去 4 年間、10 年間、50 年間、それぞれの自治体、議会、県議会の中で、原子力発電所の問題に関してどれほど議論が行われてきたかは、数字の上で明らかです。不安になる気持ちは当然ですし、30 キロメートル圏内に避難計画が求められるのだから安全協定を新たに求められるのは当然のことだろうと思いますが、立地自治体と周辺自治体の 30 キロメートル圏内の方々が同じレベルの安全協定を求めるのは違うと申し上げているところです。

**記者：たまたまという表現は、このままでよいか。**

市長：アンケートを行った時期が、たまたまこういう状況の中でした。その状況は意図的に行われたわけではなく、何度も申し上げているように、福島事故があり、国民が大きな衝

撃を受け、茨城の方で茨城方式と言われるような事前了解権の拡大というような動きがあり、そして柏崎刈羽では6号機、7号機の再稼働問題があり、さらに言うと今年の大雪があり、これはたまたま偶然の出来事が意図せず重なって起こりました。このようなことが重なってきた中で行われたアンケートということになりますので、そこで得られたアンケートの結果だろうと考えています。

**記者：今回新たに明らかになった ID の問題について、当時の核物質防護の運用に従って警察に報告したのであれば問題ないという考えか。また、一連の ID カードや核物質防護の問題と併せて公表してもよかったのではないかという考え方もあると思うが、公表する必要はない事案だと考えているか。**

市長：公表そのものに関しては、国の規則の中で何年前までの事案を全部挙げろという指示があつて、その指示を逸脱して公表しなかったならば問題は大きいと思いますが、そうではないと承知しています。また、何度も申し上げたように、6年前のことだからそれで良いとは全く思っておりません。それも含めて、そういった体質がずっと続いていたということは、東京電力自身も、規制庁、規制委員会も認識して厳しい再検査に臨んでいるはずだと思っています。もし、規制庁から過去10年遡って全て出せという指示があれば、真摯に対応してもらわなければならないと思います。

今回の一連の事案は、東京電力の責任は非常に大きく、圧倒的に責められ批判されるべきだと思っています。同時に、規制庁、規制委員会もご自分たちの体制に関して、しっかりともう一回見直してもらいたいと申し上げます。6年前だ、10年前だと過去に遡るのも大事かもしれませんが、それよりも今後、体質も含め、歩んできた負の歴史も含めて若い社員にも勉強していただき、プルサーマルのときに社長経験者が一気に3人も4人も辞められた事態があったということも含めて、厳しく検証してもらいたいというのは前から申し上げているとおりです。

## ◎オリンピックの事前合宿に関する質問

**記者：オリンピックの水球の事前合宿で、セルビアとモンテネグロが来ることになっていると思うが、中止になるなど今の状況を伺いたい。**

市長：私自身、連休前ぐらいまでは、うーんという話でした。今の状況はスポーツ振興課長からお話しさせていただきます。

スポーツ振興課長：現在も調整中です。

**記者：連休前までは、うーんという話をされたが、うーんというのはどのような状況だったのか。**

市長：日本の事情も相手方の事情もあります。お越しいただくとした場合、宿泊先や練習場所をどこにするのかを含めて、どのような態勢を組むのか考えなければなりません。もし市内で受け入れできない場合には、どこで受け入れていただけるかなどを含めたいろいろな交渉も必要になると思います。

**記者：柏崎市側から事前合宿を断る可能性はあるか。**

市長：今の柏崎市の感染状況はすでにお伝えしてあります。基本的には柏崎市からはお断りしたくないと考えています。しかし、もし市内の感染状況が悪化したならば、お断りする可能性があるかもしれません。